

# 佐香、長沢組 波乗れず

本気で狙った優勝…だから悔しい



少年男子420級 3位入賞を果たした宮古高の長沢慶（左）と佐香将太＝宮古市・リアスハーバー宮古沖

## 表彰台

### 少年男子420級3位

地元開催で優勝を目指した少年男子420級の佐香将太、長沢慶（宮古高3年）組は、3位という結果にも悔しさをにじませた。宮古湾の環境にいち早く対応したライバルに一步及ばなかった。

5位で迎えた3日目。第5レースはゴール約10分手前で転覆したが、第6レースは時折吹く強風にもうまく順応、2位でゴールし成長を見せた。

優勝は昨年の近畿インターハイと和歌山国体を制した山口。第1レースを除き、安定して上位を守り、底力を発揮した。

佐香は「（山口は）宮古に来て数日で、海面や地形を把握してレースを組み立てた。レースの作り方は自分より何倍も上だと思った」とライバルの実力を深く認めた。

ハーバーが再建し、慣れ親しんだ宮古湾で迎えた岩手国体。地の利から本気で優勝を狙っていたからこそ悔しさが残る。

それでも長沢は「ヨットができる環境に感謝し、結果として表彰台はうれしい」とはにかみ、佐香は「ハーバーの復興に携わってくれた皆さんに感謝したい」と穏やかな表情で戦いを終えた。

（菊池拓）

## セーリング



セーリングは4日、宮古市のリアスハーバー宮古沖で行われ、県勢は少年男子420級で佐香将太、長沢慶

（宮古高3年）組が3位、成年男子レーザー級の佐藤嘉記（一関市体協）は6位入賞を果たした。

第5レースを終えた少年女子420級で佐々木香波、前川優香（宮古商高3年）組は5位、成年女子セーリングスピリッツ級の高屋敷七恵（三陸国道事務所）、伊藤詩子（セントラルウェルネスクラブ仙台南小泉）組は6位で最終日の5日を迎える。

- ▽成年男子470級最終成績
- ③岩手（村上凌哉、佐々木彩人）143点
- ▽成年男子レーザー級最終成績
- ⑥佐藤嘉記（一関市体協）42点
- ▽成年男子ウインドサーフィン級最終成績
- ⑫伊藤茂夫（ムラテック）140点
- ▽成年女子セーリングスピリッツ級4日までの成績
- ⑥岩手（高屋敷七恵、伊藤詩子）27点
- ▽成年女子レーザーラジアル級4日までの成績
- ⑫小成海舞（岩手県立大宮古短大）51点
- ▽成年女子ウインドサーフィン級最終成績
- ⑫鈴木和子（シ・ワールド）104点
- ▽少年男子420級最終成績
- ①山口（松尾虎太郎、三浦匠）6点
- ②茨城（蜂須賀晋之介、岩田慧吾）19点
- ③岩手（佐香将太、長沢慶）25点
- ▽少年男子レーザーラジアル級最終成績
- ⑫中嶋俊（宮古高）78点
- ▽少年女子420級4日までの成績
- ⑤岩手（佐々木香波、前川優香）21点
- ▽少年女子レーザーラジアル級4日までの成績
- ⑫工藤紗弥（宮古商高）53点

## 佐藤（一関市体協）6位入賞 成年男子レーザー級

成年男子レーザー級の佐藤嘉記（一関市体協）は6位に入り、国体初入賞を飾った。

第1レースで31位と出遅れたが、2日目に「練習していた通りの風が吹いた」と第3レース4位、第4レース2位と巻き返しに成功。風が安定しなかった4日の第5レースは20位と振るわなかったが、最終レースは集中力を研ぎ澄ませ、4位に食い込んだ。

一関市室根町在住。気仙沼向洋高で競技を始め、JFみやぎでも続けたが、東日本大震災で気仙沼市の練習拠点の漁港と自宅が被災。競技は諦めかけたが、全国からの支援で再び海へ出た。「多くの方の支援のおかげでここに立つことができた。感謝しかない」と日焼けした顔が輝いた。

（斎藤孟）



成年男子レーザー級 6位に入賞した佐藤嘉記（一関市体協）